

## 編集後記

「出身中学には特殊な能力を持つ女子がいて、更衣場所に落ちていたタオルを嗅いで〇〇ちゃんの、と当てることができたんだ」という話をしたら、妻は首をかき上げて「えっ、タオルなら全員分かったよ」と言う。定型発達で気のいいところがある妻だが、臭い(匂い)には敏感である。それ故電車に乗った時に隣から強い臭いが漂ってくるのが怖い、と言う。わが家はふだん石鹸で洗濯しているが、息子は合成洗剤と柔軟剤とを持参してきて洗濯する。息子の物干しの下で、妻は「この匂いよりはお父さんの臭いの方がいい」と言った。

私は小学生のころ自宅への曲がり角で晩ご飯が分かった。食べることが好きだったからで、嗅覚が敏感だったわけではない。世の中には様々な香料が使われており、医療や介護の現場でも人工の香料を使ったエンシュアリキッドのイチゴ味や高カロリーゼリーのコーヒー味があるが、イチゴやコーヒーと似て非なる味である。そういうものを患者さんに出して申し訳なく思う。私は発達の凸凹があるためか特定の臭いに強く反応してしまう。除草剤がまかれたところの独特な焼けこげたような臭いは絶対に嫌だから、グリホサート系の除草剤は使わない(雑草側の作戦は稲垣真衣さんの連載をご参照ください)。クレベリンを下げた人とすれ違ふと息が苦しくなる。夜でも生石灰を運ぶタンクローリーが通り過ぎたのが分かる。遠くで新型たばこがつけられたのが分かる。逆に50年前の子供時代、バスの排気ガスの臭いが好きだったことを覚えている。私も妻も2人とも化学物質・香りスペ

クトラムがある。

世の中、消臭剤が好きながいる。しかし、妻も私も無臭の消臭剤でも「うっ」となる。化学物質過敏症とは特殊なことではなくて、それらは強い弱いの違いこそあれ、スペクトラムとして実在している。嗅脳は脳辺縁系の古皮質に属するものだからこそ、漠然とした不安が起きている。不安を口にしていくことが大切である。(出版部員 片倉和彦)

■戦争関連の報道が8月に集中することを揶揄して「8月ジャーナリズム」と言われる。本誌も8月号の特集は戦争をテーマにすることが多いが、8月にだけ戦争問題が発生するわけではない。震災から何年という「節目」や、「被災者」という大ざっぱな枠組みでは語れないという安田氏の言葉は重い。震災被害や戦争に関する問題について、「節目ジャーナリズム」でよしとせず、常に考え続けていきたいと思う。(兆)

■「短夜ひさよのあけゆく水の匂ひかな」。戦前から戦後にかけて活躍した戯曲家・久保田万太郎が詠んだ俳句だ。「浅草の詩人」といわれた万太郎ならば、まだ水がきれいだった戦前の隅田川のことか。真夏の夜が明けていく時間の経過と、水の匂いの変化を鋭く捉えている。草花や自然の香りを愛でるような文芸作品などに接すると、かつて人々は嗅覚で季節感を味わっていたことがうかがえる。ちっぽけな画面にくぎ付けになって「スマホ歩き」をする現代人は、その繊細な香りに気が付くまい。今、そんな粗雑な嗅覚の持ち主が増えていないだろうか。(黒)

## 次号 4月号のご案内

### 【特集】地域で支えるがん治療

◇診療研究◇文化◇経営・税務、雇用問題Q&A◇ほか

## 月刊保団連 3月号 2022年 No.1366 (毎月1回1日発行)

定価900円 郵便振替 00160-0-140346

会員の購読料は会費に含まれています。

発行日 2022年3月1日  
発行所 全国保険医団体連合会(保団連)  
JAPANESE MEDICAL&DENTAL PRACTITIONERS FOR THE IMPROVEMENT OF MEDICAL CARE  
<https://hodanren.doc-net.or.jp/>  
〒151-0053  
東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館  
TEL 03-3375-5121(代表) FAX 03-3375-1862(代表)

発行人 住江憲勇

印刷所 東銀座印刷出版株式会社

\*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

### 出版部

担当副会長	三浦清春
部長	宇都宮健弘
担当理事	平田米里 山田美香
副部長	佐々木典彦 仲里尚実
部員(50音順)	片倉和彦 西野恒理 濱田俊政
担当事務局	本並省吾 里村兆美 黒澤 真